

PART 6 DTC(故障コード)の読み取り・消去

使用するテスター



SK-8411 コードリーダー

車両の警告灯が点灯した際に使用します。
DTC(故障コード)を読み込むことで、警告灯点灯の原因を確認。不具合箇所の特定に繋がります。

DTCの構成

DTCはSAE J2012で規定されており、頭のアルファベット+4桁の数字で表されます。

(例) P0401:排気ガス再循環流量不足検出

P0401

P : パワートレイン(エンジンやトランスミッション)
B : ボディ
C : シャーシ
U : ネットワーク

0 : SAEで規定されている全車共通の汎用コード
1 : メーカーごとの固有コード(1以降も同じ)

OBID IIで規定された数字

- 1 : 空気や燃料に関係
- 2 : 空気や燃料に関係(インジェクション等)
- 3 : イグニッションシステムまたは点火不良に関係
- 4 : 補器類に関係(EGR, AIR, CAT, EVAPなど)
- 5 : 車速やアイドリングシステムに関係
- 6 : コンピューターシステムに関係(PCM, CANなど)
- 7 : トランスミッション
- 8 : トランスミッション

PART 6 DTC(故障コード)の読み取り・消去

診断方法

- ① DLC (車両側コネクタ)にOBD II コネクタを差し込むと電源がONになります。
- ② 車両のメーカー、診断システムを選択します。
- ③ 通信が開始され、DTCがECUに記録されている場合は、読み取ったDTCと内容を表示します。
(フリーズフレームデータを記録している場合は併せて表示します。)
- ④ 不具合箇所を修理後、DTCを消去します。消去が完了すると車両の警告灯が消灯します。



**フリーズフレームデータが記録されている場合は、DTCと併せて表示されますので、不具合箇所の特定に役立ちます。
修理完了後、DTCを消去することで、車両の警告灯は消灯します。**

フリーズフレームデータとは？

DTC記録時(故障発生時)に、DTCと一緒に記録されるエンジン回転数や水温などのエンジン各部のデータ。故障発生時のエンジンの状態を把握することで不具合箇所の特定に役立ちます。記録されるデータの項目はメーカーや車種により異なります。